

## I 事業の目的等

### 1 事業の目的

人工林資源が成熟しつつある中で、林業の採算性を回復することにより間伐や再造林等の投資を促進し、森林の健全性の維持、温暖化ガス吸収源の確保、地域経済の活性化を図ることが重要な課題となっている。

しかしながら、伐採収入に比べて、再び造林し森林を育成するための経費が過大であることが、再造林を躊躇する原因、ひいては伐採意欲低下の一因となっている。健全な森林整備推進のために、再造林コストの削減を通じて林業採算性を見通しを確立することが重要となっている。

このため、苗木生産及び植栽にかかる経費を大幅に減少させ、かつ、効率的な植栽作業が可能となるマルチキャビティコンテナを活用した新育苗・造林技術を開発し、再造林コストの削減を図るものである。

### 2 技術開発の内容

低コスト新育苗・造林技術の開発を行うものである。

### 3 事業の実施主体

この事業は、林野庁の委託事業として、社団法人 林業機械化協会が受託し行った。事業の実施に当たっては、平成20年度低コスト新育苗・造林技術開発事業委託契約書（平成20年7月18日契約）第1条の規定に基づいて作成した平成20年度低コスト新育苗・造林技術開発事業計画書の第1の（2）により、林業機械化協会内に低コスト新育苗・造林技術開発事業委員会を設置し、事業の実施計画、実施方法、実施結果等に関して、審議・指導をいただいた。

低コスト新育苗・造林技術開発事業委員会の構成及び委員会の開催経過は、次のとおりである。

#### （1）低コスト新育苗・造林技術開発事業委員会の構成

|       |               |                         |
|-------|---------------|-------------------------|
| 大山 剛  | 全国山林種苗協同組合連合会 | 専務理事（平成18～20年度）         |
| 鈴木和次郎 | 森林総合研究所       | 群落動態研究室主任研究員（平成18～20年度） |
| 仁多見俊夫 | 東京大学大学院       | 農学生命科学研究科准教授（平成18～20年度） |
| 山田 健  | 森林総合研究所       | 機械技術研究室長（平成20年度）        |
| 遠藤 利明 | 森林総合研究所       | 林業工学研究領域チーム長（平成18，19年度） |
| 中島 寛人 | 相互造林株式会社      | 取締役社長（平成18，19年度）        |

(2) 委員会の開催経過

| 回 | 開催日              | 開催場所                                              | 議題                                    | 出席委員         |
|---|------------------|---------------------------------------------------|---------------------------------------|--------------|
| 1 | 20.10.7          | 東京都文京区林友ビル                                        | 20年度低コスト新育苗・造林技術開発事業の実施計画             | 大山、鈴木、仁多見、山田 |
| 2 | 20.12.1<br>～12.2 | 関東森林管理局森林技術センター<br>(茨城県城里町)                       | コンテナ苗の取出し、積み込み、運搬試験<br>コンテナ苗の植栽試験     | 大山、鈴木、仁多見、山田 |
| 3 | 21.1.21<br>～1.22 | (有)宮崎農園(宮崎県川南町)<br><br>九州森林管理局宮崎森林管理署都城支署(宮崎県都城市) | コンテナ苗の取出し、積み込み、運搬試験<br><br>コンテナ苗の植栽試験 | 鈴木、山田        |
| 4 | 21.3.16          | 東京都文京区林友ビル                                        | 20年度低コスト新育苗・造林技術開発事業の実施結果             | 大山、鈴木、仁多見、山田 |